

赤こんりポート

東恵子リポーター



水郷に魅せられて 新感覚 BARBER

円山町の眺めの良い、ヨシの原っぱを前に、アメリカナイズに改装された倉庫があります。看板には「BARBER」の文字。三重県伊賀市のカットサロンで働いていた店主の北林祐次さんが一念発起し、祖父母の家業だったヨシの加工倉庫を利用して開業しました。

BARBERとは、本場アメリカでは主に男性向けの理髪店ですが、「幅広く地域の人に利用してもらいたい」と北林さん。「近江八幡の自然が不思議とカリフォルニアの景色と似ているんです。風光明媚な地で、BARBERの文化を広めたい」と、毎日切磋琢磨しています。

赤こんりポート

馬場利男リポーター



2つの武佐小学校がオンライン交流

日本には北海道釧路市と本市に「武佐小学校」があり、オンライン交流を行っています。

2月9日の交流会では、2校の4年生がそれぞれ発表を行いました。はじめに、釧路市の武佐小学校から植物や野鳥の紹介、国立公園やアイヌ文化を学ぶことができる阿寒湖アイヌコタンなどの発表がありました。次に本市の武佐小学校から、「名物」、「祭り」、「建物」の3つのテーマについて発表しました。その後は、お互いに感想や質問を言い合い1時間20分の授業は、両校の児童が手を振り別れを惜しみながら終わりました。

今回のオンライン交流は、お互いの学校や地域の違いについて学ぶ、良い機会となりました。

赤こんりポート

渥美勉リポーター

左義長まつりを継承していく
紫竹会のダシ制作現場を見学

今年の干支は辰。紫竹会でも辰をモチーフに、食材を使った左義長のダシが制作されていました。住民が手作りしているダシをよく見てみると、コーンだったり魚だったり多彩な食材が使われています。根気のいる作業ですが、ご年配の人から子どもまで、ワイワイおしゃべりしながら制作されていました。紫竹会では、移住してきた住民も積極的に参加しているそう。「いろいろな人に関わってもらって裾野を広くしていきたい」との考えから、見学していた私にも、少しだけ薬玉づくりをお手伝いさせていただきました。

赤こんりポート

松村美沙枝リポーター



自分を大切に ゆるゆるヨガ

まるえこ@近江八幡さんの「ゆるゆるヨガ」は、島コミュニティセンターで月2回開催しており、小さなお子さん連れの人からシニア世代の人まで、多世代に渡る参加者がいます。一般的に、ヨガと聞くと「静けさの中」で行うイメージがあると思います。でも「ゆるゆるヨガ」では、子どもが楽しそうに遊ぶ声に対して、大人は「ゴキゲンやな〜」と声をかけたり、先生も隣に来た子に「一緒に先生しようか」と誘ったりするなど、大人たちが子どもに癒やされながらヨガをしていました。

約2週間ごとに、曜日を都度変更して開催しているそうなので、気になる人はまるえこ@近江八幡さんのInstagramをチェックしてみてください。

3月2日



あの日の「夢」や「タカラモノ」に再会

武佐こども園で、平成23年度の同園卒園児や保護者、当時の先生が集まり、12年前に埋められたタイムカプセルの開封式が行われました。

当時の記憶を頼りに、園庭のプール際から「2024年3月2日10:00開封」と書かれたタイムカプセルを発掘すると、カプセルには当時の卒園児一人ひとりが書いたメッセージカードなどが入っていました。卒園児たちは、将来の夢や当時流行していたキャラクターが書かれていた紙を、笑顔で周りの友人と見せ合い当時を懐かしんでいました。最後は、集合写真で12年前の構図を再現し、開封式は幕を閉じました。

3月4日



コインランドリーが一時避難場所に

災害時に炊き出し機器などの防災資機材の提供を受ける県内初となる協定を、(株)ジーアイビーと金田学区まちづくり協議会、本市の3者で締結しました。

この協定では、地震や風水害などの災害が発生した場合や同協議会の訓練時に、同社が災害対応型ランドリー「ブルースカイランドリー ルビットパーク近江八幡店(西庄町)」の格納庫に保管している、発電機やガスコンロ、炊き出しセットなどの防災資機材の提供を受けることができます。

本市では、民間事業者との災害時応援協定を締結するなかで、災害に強いまちづくりを進めます。

2月18日

西川甚五郎邸から吉田悦蔵邸へ
歴史を紡ぐピアノコンサート開催

「寝具の西川」として知られる西川甚五郎邸で所蔵されていた、ドイツの名器・ベヒシュタインのピアノ。約100年の時を経て吉田悦蔵邸に譲渡され、吉田邸で記念コンサートが開催されました。譲渡されたピアノは「コンサート8」と呼ばれるモデルで、生産されているアップライトピアノの中で最高峰のものの一つ。当日は、約20人のお客さんを前に、吉田悦蔵邸当主・与志也さんの妻でピアニストの桂子さんが、塚本ひらきさんのチェロに合わせて演奏。シューマンやドビュッシー、ラフマニノフの曲など、さまざまな国の曲が披露され、観客はきらびやかながらも表情を変える音色に聴き入っていました。

3月12日



「拾い箱」で琵琶湖をきれいに保とう

(一社)海と日本プロジェクト in 滋賀県が、市民の自発的な清掃活動の輪を広げることを目的に「野洲のおっさん拾い箱」の設置式を、沖島漁港で開催しました。

除幕式には「海ごみPR大使」として活動している滋賀県の鳥・カイツブリのキャラクター「野洲のおっさん」と本市のマスコットキャラクター「赤コン君」が駆け付け、事前に島内で拾い集められたごみを沖島小学校の生徒が分別しました。同校3年生の樋口恵理さんは、「全くごみのない、きれいな琵琶湖になってほしい。これからもこまめにゴミを拾っていきます」と話していました。